

統計的手法を生かし、読む能力を高める

さいたま市立城北小学校 教諭 酒井 諒子

I はじめに

本校ではさいたま市教育委員会の委嘱を受け、国語科の指導方法の研究を進めている。言語活動を重視した学習指導、言語環境の整備、読書活動の推進を柱に、児童の思考力や表現力の向上を目指している。この研究に統計的手法を生かすことで、本に対する興味や関心を高め、読む力や楽しんで読書しようとする態度を身につけさせるとともに、統計的な能力の育成を図りたい。

II 研究のねらい

国語科の学習において、統計的手法を活用し、自分たちの読書生活の課題を見つけ、幅広く読書しようとする児童を育てる。

III 研究の実際

1 小単元名 2年3組おすすめブックリストを作ろう！！（第2学年）

2 小単元について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、読書が好きで、休み時間に図書室へ行ったり、学級文庫や教師の本を家に持ち帰って読んできたりする子も多い。また、朝の時間に本の紹介を行うと、休み時間に図書室でその本を借りてくるなど、読書への関心は高い。しかし、読んでいる本のほとんどが絵本や物語であり、読書の幅が狭い。本の紹介については第1学年から数えると四回目の紹介活動となる。1学期には、物語文「スイミー」の学習の最後に、友達に紹介したい本を選び、紹介カードにあらすじや作者の名前、好きなどころなどを書く活動を行っており、絵本や物語を紹介することには慣れてきている。一方、グラフづくりに関しては、1学期に算数科の「ひょうとグラフ」で、簡単なことがらを分類整理して表やグラフに表したり、それらを読みとる学習をした。クラス全員の誕生日を自分たちでグラフにする活動をしたことで、グラフの有用性にも気づくことができた。

(2) 指導観、単元の構成

本小単元は、おすすめの本を紹介し、ブックリストを作る言語活動を通じ、自らの読書生活を豊かにするとともに、紹介する相手と本を読みたい気持ちを共有して読書の輪を広げ、自分の作品に対する思いを深めることをねらいとしている。児童のおすすめの本をグラフにまとめ、読みとり、生かすなど、統計的手法を活用することで、絵本や物語以外にも2年生に読めるおもしろい本があることに気付かせ、読書活動を豊かにするとともに幅広い表現力を身につけさせたい。

3 小単元の目標と具体的評価規準

- 様々な分類の本に興味をもち、幅広く読書しようとしている。 (関心・意欲・態度)
- 好きな本について友達によく分かるように、組み立てを考えて書く。 (書くこと)
- いろいろな分類の本に興味を持ち、読むことができる。 (読むこと)

| | 国語への関心・意欲・態度 | 書く能力 | 読む能力 |
|---------|-----------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|
| 単元の評価規準 | ・様々な分類の本に興味をもち、読書の幅を広げ読書しようとしている。 | ・好きな本について友達によく分かるように、組み立てを考えて書いている。 | ・いろいろな分類の本に興味をもち、たくさんの種類の本を読むことができる。 |

| | | | |
|------------------|--|---|-------------------------------|
| 学習活動における具体的な評価基準 | ①ブックトークを聞き分類に興味をもち、本の分類のよさに気づいている。 ②読書傾向をグラフから読みとり、気づいたことを発表している。 ③意欲的に読書に取り組み、いろいろな分類の本を読んで思ったことを発表したり、ワークシートに書いたりしている。 | ①友達に紹介したい本を選び、必要なことを落とさずに文章を組み立てて書いている。 ②友達と文章を読み合い、さらに分かりやすい文章になるように考えて書いている。 | ①いろいろな分類の本を読み、友達に紹介する本を選んでいる。 |
|------------------|--|---|-------------------------------|

4 単元の指導計画・評価計画（4時間扱い）

| 時 | 主な学習活動 | 学習内容 | 評価規準と評価方法 |
|---------|--|--|--|
| 1 | ○学校図書館司書のブックトークを聞く。 ○学習課題の確認をする。 | ●本の分類番号 ●学習課題 2年3組おすすめブックリストを作ろう！ | 関①【発言・観察】 |
| 2 | ○ブックリストに載せるおすすめ本を持ち合い、分類を調べる。 ○分類ごとにグラフにし、気づいたことを話し合う。 | ●グラフの作成 ●グラフの読みとり | 関②【発言・発表】 |
| 3 本時 | ○改めてブックリストに載せるおすすめ本を持ち合い、分類を調べる。 ○分類ごとにグラフにし、前回のグラフと見比べ、気づいたことを話し合う。 ○おすすめ本の紹介文の書き方を知り、紹介文を書く。 | ●本の分類番号 ●グラフの作成 ●グラフの変化を読みとる ●分かりやすい紹介文の書き方 | 関②【発言・発表】 読①【読書貯金カード】 書①【ワークシート】 |
| 4 | ○友達と紹介文を読み合い、より分かりやすい文章に書き直す。 ○紹介文をファイルに閉じ、学校図書館に置く。 ○ブックリスト作りの感想を書く。 | ●紹介文の推敲 | 関③【ワークシート】 書②【観察・ワークシート】 |

IV 成果（○）と課題（▲）

- 自分たちの読書傾向がグラフにしたことで明確になり、読書傾向に偏りがあることに気付くことができた。
- ブックリストを作成するために、様々なジャンルの本を読み、読書の幅を広げることができた。
- 分類番号について学習したことで、そのよさに気付き、番号を見ながら本を借りたり片づけたりする姿が見られるようになった。
- ▲ブックリストを図書室に置いてもらったので、使用した人に感想などを書いてもらい、その感想から次の活動につながれるととってもよかった。

統計教育 の 実践

1. 学習指導要領における位置

| | |
|----------|------------------------------|
| 校種 | 小学校 |
| 教科 | 国語 |
| 学年・分野・科目 | 第2学年 |
| 内容 | 自分たちの読書傾向を調べ、今後の読書生活に生かす学習活動 |
| 授業時間 | 4 授業時間 |

2. 授業案 第3時

| 学習過 | 学習内容 ・ 主な発問 | 指導のポイント | コンテンツ |
|-------------|---|--|---|
| 導入 (5分) | <p>前回作ったグラフからどんなことが分かりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「絵本を読んでいる人が多い。」 「読んでいない種類の本がたくさんある。」などとまとめる。 | <ul style="list-style-type: none"> 前回のグラフを振り返り、読書傾向に偏りがあったことをもう一度押さえる。 | <p>前回作成したグラフ</p> <p>V資料 写真1</p> |
| 展開 (35分) | <p>おすすめの本が変わったか、もう一度グラフを作って調べてみましょう。</p> <p>前回作ったグラフと今回作ったグラフを見比べて、気付いたことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「前は、5種類しか読めていなかったが、今回は9種類読めている。」 「絵本の数が19人から9人に減った。」などとまとめる。 <p>いろいろな種類の本が読めたね。</p> <p>おすすめ本の紹介文を書こう。</p> <p>おすすめの本を分かりやすく紹介するためには、どんなことを書いたらいいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 題名、作者、本の種類、あらすじ、登場人物、おもしろかったところ、気に入ったところを文に入れて分かりやすく書く。 <p>書き終わった人は文章を読み返しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文字の間違いないか、文章を読み返して確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> これまでも国語の授業で本の紹介文を書いたことを思い出させ、友達に分かりやすく本を紹介するためのポイントをクイズ形式で確認する。 紹介文に本の分類を入れることを押さえる。 絵本や物語以外の本で紹介文を書くのは初めてなので、ことわざの本を紹介したのモデル文を掲示し、書き方のイメージをつかませる。 ブックリストの使用者が本を探しやすいように、紹介文には本の表紙の写真を貼る。 文章が書けた児童には、自分の紹介文を読み返すように助言する。 | <p>今回作成したグラフ</p> <p>V資料 写真2 写真3 写真4</p> <p>ワークシート クイズ資料 V資料 写真5</p> <p>モデル文 V資料 写真6</p> |
| まとめ (5分) | <p>次回、友達同士で文章を見直し、表紙の写真を貼ってブックリストを完成させましょう。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 次回の学習への期待を持たせ終わりにする。 | |

統計教育 の 実践

V 資料



写真1 前回のグラフを振り返る



写真2 グラフ作り

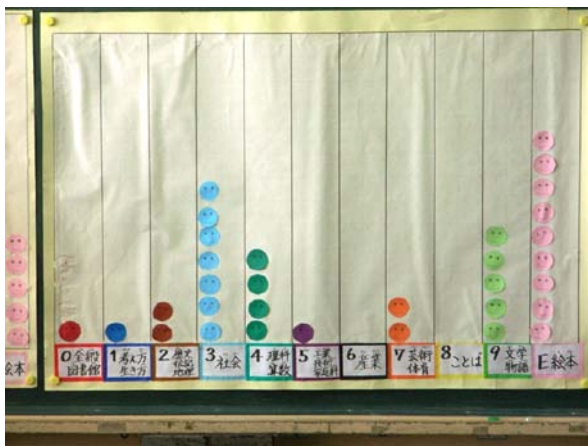


写真3 新たに作成したグラフ



写真4 2つのグラフを見比べる



写真5 本の紹介に必要なことを確認

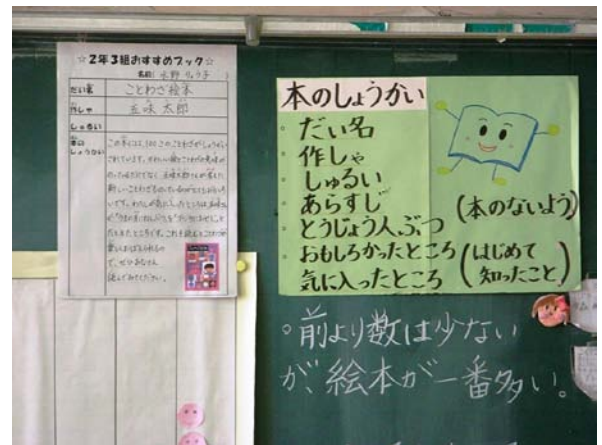


写真6 紹介文のモデル